

トピック

國內輸送
と
コンテナ

日通本社企畫課
片山 幸作

輸送と梱包は表裏一體であつて、包装の良否如何は直接輸送能率に大きな影響を與える。荷物はかざられた時間内にきめられた數量を貨車積しなければならぬので、型狀、容積を數種に統一することが、必要である。これらの要求を滿すため、いろいろ研究されたのが、コンテナ(container)である。

歐米におけるコンテナ

歐米においては特別貨物は別として、普通貨物は梱包して運送するよりコンテナに依存している。これはわが國で昔から使用されている、“通い箱(かよいばこ)”であつて、つづら、茶箱などがそれに當るが、また一般的に利用されてはいない。海外では容積1~20立方メートル、積載量2~5t、自重2tにおよぶものがある。形は貨車を小型にしたように開戸・車戸などがあり、小車が裝置され、また起重機で吊上げられることもある。特殊な型ではドライ・アイスや氷で保温する冷蔵コンテナとかゴム車輪つきで貨車から下せばすぐ曳馬をつけて、市中へそのまま曳いでられるものもある。もつと小型のものではフォーク・リフト用に設計されたものも現れてきた。また函の材質は木製あり、鋼板製あり、鐵板の内側へ布やベニヤ板を張つたものもある。ドイツではパンツェルホルツ(Panzer Holz)といつて薄鐵板にベニヤ板を特殊な樹脂で張合せて軽く丈夫な材料や、アルフォ

ル(Alfoi)や0.1mmのアルミ箔を木板に張つて濕氣や放熱を防ぐ材料を用いたものがある。

各國とも國營、私營の鐵道はもちろん、一般商社も私用コンテナをもつており、イギリスではコンテナ専用の驛もできている。また國際コンテナ協會が設立されて、コンテナ貸貸専門の會社があつて、荷主が午前中に荷送りを申込みば、午後には空コンテナをとどけて荷物を詰め發送してくれる。月曜日夕南佛カヴァイオンで果實をつめ、火曜日朝ブローニュ、水曜日にはロンドン到着といつたように、運賃料金は國際規約で一ヶ所で支拂えばよく、みな小運送つきの料金となつてゐる。鐵道の發達によつて輸送は非常に迅速で、コンテナの効用はすばらしくまた回収もはやい。南佛でつめた果實は3日後になつても等温コンテナのため、新鮮さも味も詰めたときよりむしろ優つてゐるくらいで、獸肉、野菜、果實の輸送に大きな役割を果している。イギリスでは冷蔵庫の製作を中止し、冷蔵コンテナに切り換へている。これならばどの貨車へでも載せられて、貨車の運用率が數倍するからである。ソ聯では、コンテナ1個の平均積載量1.5tで貨車一車へは平均12t、自重とも16t積となつてゐる。

コンテナの發達と國民性

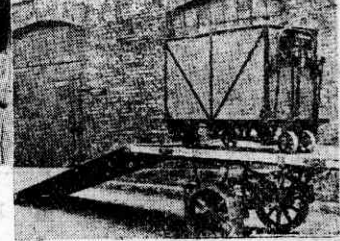
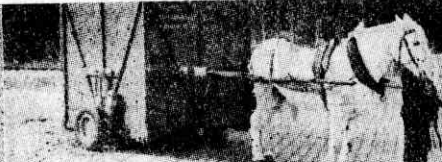
コンテナは1897年アメリカにおいて貨車からボディだけを取りはずして小運送したのにはじまり、イギリスでは1925年にはじめて試験的に採用され、5年後にはすでに試験的の域を脱して發展した。ヨーロッパ各國はそれにならつてコンテナの制度を採用しはじめ、アメリカの例によつて小口扱貨物を歐洲大陸相互間に實施した。

コンテナの發達は現在イギリスが世界一であるが、イギリスでその

ように急速な發展をみたのは、鐵道が發達していること、コンテナは貨車の一部であるという觀念およびコンテナの返還期日を1時間のくゆるもなく紳士的に守る國民性によるものである。イギリスではコンテナの回収は1回平均4日を過ぎることがないという一事をみても、如何にコンテナの目的に協力的であり、約束に忠實であるかが立證される。コンテナはわが國でも數回試みられたが、運用に當つてはいつもその回収が問題になつた。おもしろいことにドイツでは引越荷物には、コンテナを貸出さない。これは萬一返還期日が守られないと、次の轉送運用に大きな支障をきたし、その効用率が半減されるからである。

コンテナの効用

コンテナの効用については、その結果報告は各國ともほとんど一致している。すなわち荷主からみた効用は、①荷造費の不必要と時間の節約 ②鮮度の保持 ③盜難紛失の豫防 ④荷くずれ汚損からの保護などで、また鐵道側からみた効用は①貨車留置期間の短縮 ②滞貨の減少 ③盜難の絶無 ④荷物汚損、破損補償の不要 ⑤積載量の増加 ⑥發着積卸時間と手間の節約などである。これらは貨物輸送量の増加、貨車運用率の向上、人件費の節約におよぶことになる。したがつて運賃コストははるかに低下し、収益は増加するのである。アメリカではこの理由でコンテナによる貨物運賃は普通貨物運賃より數%安くなつてゐる。また各國ともコンテナの自重運賃を免除し、空コンテナの返送は無賃で取扱つてゐる國さもある。このようにコンテナ・システムは大いに奨励され援助されている。わが國においてもこの制度が各位の御協力により實施され、發展することを切に望むものである。



↑ 奥馬で市中へ配達するコンテナ(フランス)
← 大型冷蔵コンテナ(イギリス)
車輪付小型コンテナ(オースタリー)→